

発寒ひかり
保育園だより

2019年
5月号

巻頭言

今年度もたくさんのお友だちが入園し、ファミリーの仲間も増えて新たなスタートを切りました。環境が変わり、新入園児も在園児も共に不安な表情を見せることもありましたが、少しずつ慣れ、笑顔や穏やかな表情がみられるようになってきています。小さな心と身体で、精一杯新しい社会で頑張ろうとしている姿に愛おしさを感じ、私自身もパワーをもらっています。

4月からファミリー担任を離れ、フリー保育士になり、正直寂しさでいっぱいでした。しかし、これまでファミリーに向けていた視野を全体に向けること、私たちが目指している保育の実現に向けて、違う観点で保育する大切さを日々実感しています。今まで以上にそれぞれのファミリーの子どもたちと関わる機会が増えました。給食を食べに行く嬉しそうにお話をしてくれたり、お昼寝の時には「あとでトントンして」と恥ずかしそうに言いに来る子、ここぞとばかりに抱きつき、甘えにきてくれる子もいます。子どもたちが遠慮なく関わってくれ、嬉しく思います。また、アリの巣を見つけたきりんさん（5歳児）が「ここはアリのくにだよ」とほんわかするような表現をしていることに気付いたり、ファミリーやクラスの雰囲気の違いに気付くことができるのも、フリー保育士ならではのおもしろさではないかと感じています。

これからは「みんなのせんせい」。子どもたちがほっと一息つきたくなったり、甘えなくなったりした時などに寄り添い、温かく包み込んであげられるようなお助けマンのような存在になりたいと思います。6つのファミリーの子どもたちが、これからどのように成長していくのか楽しみです。

フリー保育士・りす組担任 鈴木 めぐみ